

# 象成

栃木市立大宮北小学校だより

令和7年度臨時号 HP 版 文 責：校長

明治6年に本校の前身として開校された「象成学舎」の名にちなみ、学校だよりの題字を「象成」(しょうせい)としました。

大宮北小・ホームページ

<https://tm2.tcn.ed.jp/o-kita/>

QRコードから

スマートフォン等でも

日頃の様子をどうぞ

ご覧ください。



学校課題研修で、1年間の取組をまとめ、グループごとに発表し合う教職員

本校の教育活動の成果と課題を把握するために、教職員、児童、保護者を対象としたアンケートを実施しました。保護者の皆様には、ご多用のところアンケートにご協力いただきありがとうございました。

アンケート結果を分析・考察するとともに、学校関係者のご意見を踏まえながら、教育活動の改善を図ってまいります。

これからも、保護者・地域の皆様との連携をさらに強化しながら、**チーム大北**で力を合わせて、“**子どもファースト**”に努めてまいりますので、ご理解とご協力・ご支援を、どうぞよろしくお願いいたします。

## 1 アンケート結果について



(1)表内の数値は、「そう思う」「ややそう思う」の合計(%)です。

下段【 】内は、「そう思う」のみの数値です。

(2)質問項目①は、教職員と保護者のみの質問です。

(3)質問項目⑨は、6年生児童のみ対象としています。

(4)質問項目 No.7 以外は、東陽ブロック小中学校共通です。

No.	学校経営方針との関連	質問内容	児童	保護者	教職員
①	学校と家庭・地域との情報共有	学校だよりや各種たより、ホームページ等により、情報を意図的・計画的に発信している。	—	<b>95</b> 【59】	<b>100</b> 【98】
②	体験活動の充実	地域とともにある学校づくりのために、各種学校行事等を意図的、計画的に行っている。	<b>82</b> 【55】	<b>91</b> 【39】	<b>100</b> 【88】
③	「小さな親切」8か条の推進	児童のあいさつ指導に継続して取り組んでいる。	<b>87</b> 【50】	<b>85</b> 【36】	<b>98</b> 【65】
④	家庭学習の充実	宿題等の家庭学習の習慣が身に付くよう工夫しながら継続して指導している。	<b>86</b> 【53】	<b>90</b> 【41】	<b>100</b> 【63】
⑤	学習指導の工夫改善	児童が、自分の意見や考えを友達と交流し合い、考えを広げたり深めたりできるような活動の設定やタブレット等のICT機器を有効に活用している。	<b>75</b> 【37】	<b>78</b> 【30】	<b>97</b> 【63】
⑥	グローバル教育の推進	インターネットやSNSの使い方について、約束を守って正しく安全に使用できるよう、学年に応じた指導をしている。	<b>96</b> 【81】	<b>79</b> 【33】	<b>98</b> 【58】
7	児童指導の充実	児童一人一人の学習状況や友達関係等を把握し、家庭と連携しながらきめ細かな指導をしている。	<b>89</b> 【66】	<b>78</b> 【30】	<b>98</b> 【65】
⑧	児童理解によるいじめ防止の推進	教育相談やいじめに関するアンケートを実施するなど、いじめ防止等に取り組んでいる。	<b>89</b> 【55】	<b>84</b> 【33】	<b>100</b> 【84】
⑨	小中一貫教育の推進	小中一貫教育を意識して取り組んでいる。	<b>90</b> 【52】	<b>81</b> 【27】	<b>97</b> 【72】

## 2 結果の分析・考察について

①	情報発信は高評価で、閲覧数もかなり増加している。本校の特色のPRにつながっているので、さらにこまめな発信、内容の質の向上に努める。
②	年間を通して学校行事等の見直しを進め、学校と家庭・地域が目標を共有し、児童が主体的に活動できていることがわかる。さらに自治力向上を目指して、工夫・改善を図っていく。
③	保護者や教職員ともに上昇した。東陽ブロックや児童会の取組の効果が大きいことがわかる。上級生の果たす役割を高め、教職員の率先垂範を実践し、家庭・地域と連携した取組を工夫していく。
④	家庭学習の目的や方法等の共通理解により、保護者の数値が上昇した。自主学習ノートの掲示による児童への啓発効果も大きい。校内で情報を共有し、より充実した家庭学習につなげていく。
⑤	教師のファシリテートによる、児童の考えを広げ深め合う授業実践につながっている。家庭でのタブレットを活用した学習の拡充効果もみられるので、さらに授業力の向上とICT活用を進めていく。
⑥	保護者や教職員が課題と感じていることから、東陽ブロックで作成した「情報モラル CAN DO リスト」の活用とともに、保護者会等で話題にしながら、学年に応じた指導の手立てを工夫していく。
⑦	児童・保護者ともに担任・学校への信頼度が上昇している。全教職員で未然防止・早期発見・早期解決に向けたチーム対応を継続し、児童とのコミュニケーションや保護者との連携をより密にしていく。
⑧	保護者の評価が大幅に上昇した。日頃のコミュニケーションを大切に、必要に応じて専門家や関係機関との連携を図り、校内組織を活用しながらチーム対応を充実させていく。
⑨	教職員の意識の高まりによる東陽ブロックでの新たな取組や実践化により、保護者の高評価にもつながった。新たな分野に広げながら、さらに推進させていく。

## 3 学校関係者評価の結果について

1/27(火)に第3回学校運営協議会を実施し、委員の皆様からアンケート結果等を踏まえたご意見をいただきました。

- ◇ 全体的に保護者の評価が上昇しているのは、教職員の日頃の努力の成果であると感じている。
- ◇ いじめ等のショッキングな動画が流れたが、インターネット・SNSの正しい使い方については、「情報モラル」の指導が必要である。専門的な外部講師による研修を親子で受講し、啓発していく必要がある。保護者の責任として、インターネットの利用については危機意識を高めたい。
- ◇ 学習におけるアシストネットの活用を通して、児童とともに教職員へのサポートにもなっていることを感じる。今年度は特に、「ちよこっとボランティア」を4月の「PTAからのお知らせ」(オンライン)で地域Co.が呼び掛けたことと、公民館経由で人材の紹介もあったので、新規メンバーも得られた。できるだけ日程調整が早めにとよい。
- ◇ 教育相談について、いじめ等をテーマとした他の会議でも取り上げられる話題であるが、本校の評価結果から、よい取組状況がうかがえ、困っている子に声掛けができていていることが分かる。小1・中1にかかるストレスは大きいので、今後も児童へのきめ細かな指導を継続してほしい。
- ◇ あいさつについては、東陽ブロックでの取組の成果も大きく、小学生の姿に変容が見られ、評価結果の数値にも現れているのはうれしい。小中一貫教育は、小学生同士・小学生と中学生の直接的な交流の効果も大きいので、是非大事にしてほしい。
- ◇ 質問項目に、保護者がどれだけ具体的な内容を思い浮かべながら回答しているかが気になる。児童と教職員の回答にかい離があることから、教職員の頑張りがうまく伝わっていないのではないかと。保護者に学校側の努力が伝わるとよい。



## 4 今後の教育活動の改善について

- (1) あいさつを中心とした「小さな親切」運動を家庭・地域等と連携して推進し、児童の「自治力」向上に努め、互いのよさを認め合う集団づくりを推進します。
- (2) 情報モラル教育や各教科等での児童同士の学び合いの様子を、学校ホームページ等を活用して、学校・学年から情報発信していきます。
- (3) 小中一貫教育の取組のさらなる工夫改善に努め、教員間の相互交流等による授業力向上を図りながら、児童の自己実現に向けて努力する力を育みます。



東陽中学校区の小中学校では、毎月14日を「トーヨーの日」として、家庭内のコミュニケーションをより深めていくための「家ぞく団らんの日」としています。  
家庭学習強化週間の取組へもご協力いただき、感謝いたします。

